

子守 大伝奉

天王寺公會堂に大
雪崩打つ労働者
東京九州からも加はつて
各辯士が熱辯を揮ふ
藤永田罷工團の演説會

機織工組合主催藤永田罷工團の演説會は既記の通り十二日午後六時から天王寺公會堂で開かれる、定刻の二時間も前からは、

職工團や友愛會員は、

解と語り掛け多数の社会主義者

さへ紛れ込んで午後五時過ぎには、早や多数の聴衆は場外に溢れて、窓に攀ち上つたり裏口から雪崩れ込む、司會廳では直ぐに窓や扉を悉く締切り、戒嚴から

は多数の制服や私服の巡警が、

命に懸かれどもイッか九首かばこそ、又場内に廿餘名の整理係

四手人

が舞を舞として舞するが、

ツシリ讀つて舞臺の裏から演説にまで、出されて立舞の餘地もなく、未だ演説もされない前、から早や内外共熱気が溢る午後六時を過ぎる十分過ぎる様な拍手に迎へられて友愛會の野田氏が、

が壇上に現れて閉會の辭を兼ねた演説を試み引續いて九州、東京、神戸方面なから、

士、愛知、その他の辯士は交々立つて、

た壓迫と資本家の専横を痛罵して

戦ひは

五分の辛抱勝利を得なければ、

私は腕を垂べて居るまで、

び固執なく奮闘の第一は耳を聴かせる計り、そして最後に

彦、高野の岡山三女會の御大鈴木文治の三氏が熱辯を振らつて午後十時半閉會した

窓から

過激な歌を撒く

嚴 探 中

犯人戒警で

命に懸かれどもイッか九首かばこそ、又場内に廿餘名の整理係

葉は幾回もなく押し破つて唱曲を極め物凄いはさまであつたが、其の時西側の二階の窓から、

の歌女歌を印刷した宣傳札を場外の群衆に向つて撒き放らした者があつた、

王業の仕業であらう、

解決するまで

歸らぬ

外部から

出来だけ應援

鈴木文治氏談

女愛會五鈴木文治氏は藤永田の對労働者に對する自己の態度を語つて曰く職工団の自由意志に任せては餘り内部に入らぬまいと考へます充分理解のある人々が幹部や委員となつて活動されて居るで、

なを望むと思ひます、そして何なる事があつても解決の曙光を

大和川附近で

職工大會

友愛會支部で、

各所に演説會

演説會し熱氣を拂けた藤永田の罷業職工團は十四日午前十一時に南海線大和川附近に集合し連動會を兼ね職工大會を開催する

各友愛會の尼崎支部では第一支部を東亞セメントの職工を中心にして、

第二支部は久保信職工所職工を中心にして、

第三支部は大日本木業職工を中心にして、

演説會を閉く